



P.2  
たき火を囲む会  
介護老人保健施設  
いっぶく



P.3  
ある夏の日の  
ゆうげ



P4~5  
ただ散歩落書き帳簿  
「医者嫌いのたつおさん」



P.6  
こんなスタッフと  
働きたいね！



P.7  
働いている人に  
聞いてみよう！

あなたとともにできることところとからだにくつろぎのいっぶく

<http://www.shitada.jp>

# いっしょに



ただ

訪問看護ステーションとんぼ  
介護老人保健施設 いっぶく  
かもしか病院  
介護老人保健施設  
いっぶく 2 番館

医療法人社団ただ 広報誌

2010年12月 | リニューアル号





下田の里山も4月に入ればようやく山々の雪も消え、暖かい日差しがそそぎます。そんな中、かもしか病院にほど近い「北五百川地区」に「かたくり」の群生地があり、花を咲かせます。乱獲や盗掘、土地開発などにより生育地が減少し、貴重な場所となっています。



## P2 「いっしょに」

こころとからだにくつろぎのいっぷく

### 介護老人保健施設いっぷく たき火を囲む会



最初に申しあげると、このイベント自体は今年のイベントではなく、2年ほど前に行われたものです。しかしこのイベントの性格を考えれば考えるほど、当法人の運営をよく表しているものと感じられるようになりました。遅ればせながら、掲載します。

前日の雨模様とはうってかわって晴天に恵まれた中、リハビリ課主催の「焚き火を囲む会」が開催されました。

今回は、数日前からご利用者と一緒に集めた落ち葉や杉の木を使用しました。葉っぱを足すタイミングや火の起こし方など御利用者にご助言を頂きながら、焚き火が完成!! さすがは「昔とった杵柄」。手作りらしい昔ながらの風景を再現することができました。



火の中へは、アルミ箔に包んだサツマイモを入れたり、串に刺したマシュマロを炙ったりして、食欲の秋も同時に楽しみました。ご利用者にとってはあまり馴染みないマシュマロには「団子くれいやー」との声も飛び交ったり…。

パチパチと燃える音をBGMに、熱々のサツマイモを嬉しそうに頬張ったり、自然に手を火にかざして暖をとったりするご利用者の様子を見て心温まるものを感じました。普段、療養棟では見れないご利用者の表情を拝見し、思い出深い一日となりました。

私たちの施設に入居されている方は、自分たちが今まで慣れ親しんだご自分の家ではない場所で生活されています。そうすると生活のリズムや習慣なども変わるはずですが、またこの地域は農業を営まれていた方が多かったです。そうでなくても、秋になればご自宅の庭先で焚き火をするのは、ごく当たり前の光景だったと思います。

「日常生活の継続」。施設としても今後とも取り組んでいきたい課題の一つです。





梅雨が明けると、それこそ「日本の里山の夏」が全開となって下田を覆います。

2010年に限っては記録的な猛暑で、稲の生育にも悪影響を及ぼしましたが、それでも緑の多さで市街地よりは、はるかに過ごしやすい夏の日々です。

## 「いっしょに」

こころとからだにくつろぎのいっぷく

P3

### ある夏の日のゆうげ

2010年、今年の夏はことさら暑い日が続きました。そんな夏の残暑も厳しいある日、当法人施設ご利用者から「こんな日は、『くっ』とやりたいもんだね」という、なかなか医療法人として「はいそうですか」とはすんなりいかない要望が多々寄せられるようになりました。

しかしながら当法人施設には長期に渡り施設をご利用されている方々が大勢いらっしゃいます。施設をご利用する前には毎晩、お飲みになっていた方も当然いらっしゃる訳ですよね。

その日常習慣を当方がぱつぱりと断ち切る権利は無い…と思います。実際 90歳を超えた方に「健康のために禁煙しましょうね」といっても正直な話、説得力ないですよ…。

そんな、『くっ』とやりたい…という施設ご利用者の要望に応える形で、主治医監督の下、夏のゆうげが始まりました。夕食の前のちょっとしたひと時、いつもと少し違う雰囲気です。

もう、楽しい雰囲気全開、というところでしょうか。

あ、主治医自ら注いでいます。



いつもはそんなに表情が豊かではない方も、傍目で見ていると、非常に生き生きとした顔をされている気がします。

施設をご利用されている間はなかなか外出する機会がなく、やはり食べることに关しては我々が想像する以上に楽しみにされている様子が手に取るように感じられました。

こんなゆうげが全国で見ることができれば、と考えたら楽しくなっていました。



下田のかもしか病院からほど近い北五百川地区には「日本棚田百選」にも選ばれた、美しい棚田があります。日本の里山を象徴するかのような、風景が広がります。9月中ごろには稲刈りの季節がやってきます。一部の稲は、「はざ掛け」と呼ばれる天日干しをしています。機械乾燥より「旨み」が増すとされています。



## P4 「いっしょに」

こころとからだにくつろぎのいっぷく

### 医者嫌いのたつおさん

70 をとうに過ぎたたつおさんは、山深い小さな集落に、一人暮らしです。心臓が悪いために、入院を勧められていますが、頑なに拒み続けていました。

ある日医者嫌いで有名なたつおさんが、かもしか診療所（現在のかもしか病院外来）に来ました。

「ぜいぜいぜい」  
 「たつおさん、どうしましたか」  
 「ぜいぜいぜいぜいぜい」  
 「あー心臓が難儀いんですね」  
 「ぜいぜいぜい」

これでは死んでしまうと思い、点滴をして、症状を緩和すると顔の色も戻り、話もできるようになりました。

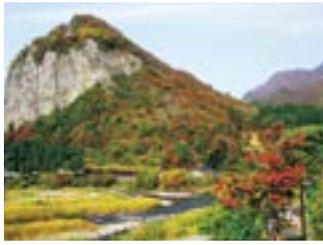
「たつおさん、今日は安静にしてくださいよ」  
 「今日はお湯に入りこれから運転していくんだ」  
 近くにある、いい湯らていに行くつもりだと察した看護師さんが  
 「たつおさん、温泉なんか入ったら死んでしまうから止めなさいよ」  
 「死のうが死ぬまいが温泉に入りたいんだよ」

しばらくやり取りして、たつおさんはしょんぼりと帰りました。しばらくしてたつおさんは車の運転もできなくなり、歩くこともつらくなってしまい、ひとりぼっち、家で寝込むようになりました。

見かねた息子さんが、町で自宅を建てて、たつおさんの部屋も作り呼び寄せようとしたのですが結局は断ってしまいました。何回かの冬を一人で過ごしながらヘルパーさんが作る食事と訪問看護師さんの世話を受けながら過ごしていました。

暑い夏の日には訪問看護の看護師さんから、たつおさんがやせ細ってこのままだと夏を乗り切れないかもしれないと、報告がありました。





11月に入ると、一日の寒暖の差が大きくなり、山々の紅葉も進みます。

下田の山々は、日光などの紅葉の名所とは違い比較的針葉樹林が多いのですが、その針葉樹林の緑が広葉樹林の紅葉を際立たせます。

## 「いっしょに」

症状が重いようなので、息子さんから入院を説得するようお願いしましたが、本人が拒否してしまいました。仕方がないので、親戚一同が集まり、本人に病院受診を強く勧めましたが、頑として受け入れません。みんなが困っていると、かもしか診療所なら行ってやってもいいと言い始めました。

翌日に車椅子の乗せられてたつおさんはやってきました。以前とは変わり果て、痩せこけて無精髭の顔はつらそうでしたが、相変わらずの空元気です。

「たつおさん、まだ生きていたんですね」

「まだまだ死なないわね」

「餓死しそうなので、点滴しますね」

「う〜む、よかろう」

「ところでせっかくなつおさんをとっ捕まえたので、車を呼ぶけど、白い車と黒い車のどっちがいいかな」

「いや——、どっちもいらん。特に黒い車はやだね」

ということで、町の病院に連絡をとり、すぐに救急車を呼びました。救急車に運び込まれるたつおさんは、どこかホツとしたような表情にも見えました。救急車が立ち去るのを、みんなでやれやれといった感じで見送りました。

その日の夕方後片付けをして、帰ろうとしているところに、たつおさんの息子さんが訪ねて来ました。

実は病院に救急車で行ったのだけれど、結局本人が絶対に入院しないと激しく抵抗した為に、病院にもあいそをつかされてしまい、戻ってきてしまいましたと…

息子さんの車を覗き込むと、後ろの席にたつおさんが嬉しそうにちょこんと小さく座っていました。

「先生、戻ってきたよ、明日往診に来てくれ、えへへ」とのたまいました。

たつおさんにとって、思い出が詰まっている自分の『家』から離れることは、死ぬことと同じだったのです。

自分の病状を知っているから、医者や病院に行くことが出来ないのでしたのでしょ。

どんなに貧乏だろうが、山深い地であろうが、たつおさんには最後まで大事な場所だったのです。

地位やお金や物ばかりが大事にされる今という時代、形のない大事が見失われそうです。





12月下旬を過ぎると本格的な降雪となります。  
かなりの豪雪地帯であることは間違いないのですが、最近道路の除雪も行き届いて、三条市街地から約30分でこの景色が自分のものです。



「いっしょに」

働いている人に聞いてみよう！ かもしか病院富山介護士長に聞く！



本日はお忙しい中お時間頂きありがとうございます。ではインタ...

富山介護士長（以下富山）：あの… NHKのプロフェッショナル的なものか、それとも情熱大陸的なもの、どっちがいいですか？

（一同爆笑）いや、のっけから飛ばしますね！じゃ、NHKでBGMはスガシカオで！

富山：はい！

最初に、介護の専門学校を卒業されていますが、なぜ介護職を選ばれたのですか？

富山：人とかかわる仕事をしたかったですね、消防士のハイパーレスキューや、自衛隊の災害レスキューなど人を助ける、そのような仕事に憧れました。ただ、体力的に不安があり、また精神的にもやられるのではないかと。また、保育士も憧れたのですが、自分ピアノが弾けない訳なので（一同再度爆笑）、ちとまずいなと。♪もしも～ピアノが～弾けたなら～♪と本当に弾けない。介護職にたどりついたのは小学生の時に老人ホームにボランティアに行った思い出があり、それが自分の中で強く残っていました。こう話すともるで消去法みたいですがそんな訳ではないので。

今、介護職として仕事をされていますが、

富山：はい、就職した当初、何もかもが新鮮で食事介助、入浴介助、排泄介助もやりがいがありました。でもそれが1年2年と経てくるとそれが流れ作業になってしまっていて…だんだん自分で目標を見失う事態となり…

で、1回この法人を辞めた。

富山：はい…。ただ一回この法人を離れて別の施設で働いたのですが、その施設が職員いっしょに何か取り組む雰囲気があり、一人ひとりご利用者のことを思って仕事している。ご利用者に寄り添って考えている。今考えると、最初にかもしか病院で働いていたときは自分本位で仕事をしていました。

でも、言葉にするのは難しいのですが、本当はご利用者に振り回されてこそ介護職なんじゃないのかなと。

何回もナースコールで呼ばれてそれでも行く。面倒だと思わずに、それで一日が終わるほうがいいのではないかと思います。そしてまたこちらのかもしか病院に声をかけて頂いてお世話になっている訳です。

今は介護士長になられていますが、一日の仕事の流れを大まかに教えてください。

富山：朝、各ユニットのご利用者のお顔を皆さんみて、挨拶して、情報が上がっているのをチェックして、朝礼、その後は、いま自分はユニットに入らずに職員全体の流れを見ながら、その時々に応じて大変なところがあつたらそこに入って、病棟全体をぐるぐる周るような、オシムジャパンという「水を運ぶ選手」ですかね！

え？（この後富山士長から「水を運ぶ選手」の話が続いたが割愛します…）

富山：とにかく、自分は目立たなくてもよいので、職場のみなさんが楽しくてやりがいを感じられる職場を作りたくて、一番はもちろんご利用者ですが。

また、どうしても介護職は辞める人が多いので楽しくてやりがいのある雰囲気になりたいなど。社会的にも介護職は地位が低く見られているじゃないですか！で、すぐ辞める。悔しいじゃないですか！そのあたりからなんとかしたいですよ！

お忙しい中ありがとうございました！

オシムジャパンの「水を運ぶ選手」、調べましたらこういう事でした。

「水が無ければ生活できないように、ボールを奪いそれをゴール前まで運んでくれる選手がいなければ、ゴール前で待っているエースプレイヤーはどんなにテクニックがあってもゴールは奪えない。」

なかなか含蓄のある言葉だったのですね！



## 医療法人社団しただ

- 訪問看護ステーションとんぼ
- 介護老人保健施設  
いっぷく  
新潟県三条市長野 337
- かもしか病院  
新潟県三条市南五百川 80
- 介護老人保健施設  
いっぷく 2 番館  
新潟県三条市帯織 800



いっしょに  
医療法人社団しただ広報誌  
リニューアル創刊号

2010年12月

発行  
医療法人社団しただ  
この広報誌に関するお問合せは  
以下までお願いします  
955-0132  
新潟県三条市長野 337  
TEL 0256-41-3810  
FAX 0256-47-2801  
介護老人保健施設いっぷく内  
医療法人社団しただ総務部

オフィシャルウェブサイト  
<http://www.shitada.jp>  
オフィシャルブログ  
「しただブログ」  
<http://shitada.blog-niigata.net>

## 法人理念

## こころとからだにくつろぎのいっぷく

## ケア方針

1. 寄り添うケア  
生活を一緒にする中で、その人の生活のペースを大切にします。  
ふだんの1日1日を大切に過ごします。
2. 元気が出るケア  
人は麻痺や老化で元気がなくなるのではありません。  
年をとって麻痺したからだを持ってまで生きたいという気にならないからです。  
その人の元気を取り戻すケアをします。
3. 知るケア  
人にはそれぞれ生きてきた歴史や人生があります。  
その方を知る努力をし、個性を大切にします。

## 広報誌名「いっしょに」のタイトルについて

わたし達は一日の中で誰かといっしょに行動する機会が必ずあるのではないのでしょうか。一人暮らしの方でも会社や学校、地域のコミュニティーなどでどなたかといっしょに行動するでしょう。そして生まれてくるときも一人ではありません。しかし現在の医療施設で、入院/入所となると、家族と切り離され、相部屋であっても「ひとり」のイメージがつきまとう気がします。当法人では施設であっても家庭のような心暖まる場所にしたい、そんな理想を持って運営しています。そのような想いをこめた名前です。



よりそっている姿を表現しました。  
当法人パンフレット表紙に使用しています。

